

(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B2)

(11)特許番号

特許第7080136号

(P7080136)

(45)発行日 令和4年6月3日(2022.6.3)

(24)登録日 令和4年5月26日(2022.5.26)

(51)国際特許分類

A 4 7 K 3/02 (2006.01)

F I

A 4 7 K 3/02

請求項の数 4 (全13頁)

(21)出願番号	特願2018-154538(P2018-154538)	(73)特許権者	504163612
(22)出願日	平成30年8月21日(2018.8.21)		株式会社 L I X I L
(65)公開番号	特開2020-28367(P2020-28367A)		東京都江東区大島 2 - 1 - 1
(43)公開日	令和2年2月27日(2020.2.27)	(74)代理人	110000497
審査請求日	令和3年6月23日(2021.6.23)		特許業務法人グランダム特許事務所
		(72)発明者	新村 雄三
			東京都江東区大島二丁目 1 番 1 号 株式
			会社 L I X I L 内
		(72)発明者	渡辺 賢司
			東京都江東区大島二丁目 1 番 1 号 株式
			会社 L I X I L 内
		(72)発明者	西尾 公一
			東京都江東区大島二丁目 1 番 1 号 株式
			会社 L I X I L 内
		審査官	七字 ひろみ

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 浴槽

(57)【特許請求の範囲】

【請求項 1】

浴槽本体と、
前記浴槽本体の洗い場側に配置されるエプロン本体と、
前記エプロン本体よりも洗い場側に配置され、上部に手をかける手かけ部を有したエプロンカバーと、
を備え、
前記エプロン本体は、上部に横方向に延びて前記洗い場側に突出した当接部を有し、
前記エプロンカバーは、前記当接部の下面に当接する被当接部を有していることを特徴とする浴槽。

【請求項 2】

前記エプロン本体は、被係合部を有し、
前記エプロンカバーは、前記被係合部に係合する係合部を有していることを特徴とする請求項 1 に記載の浴槽。

【請求項 3】

前記被係合部は、下方方向に垂下する垂下部を具備し、
前記係合部が、前記垂下部に係合して、前記エプロンカバーの前記洗い場側への移動を規制することを特徴とする請求項 2 に記載の浴槽。

【請求項 4】

前記係合部は、前記手かけ部に設けられていることを特徴とする請求項 2 又は 3 に記載の

浴槽。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は浴槽に関する。

【背景技術】

【0002】

特許文献1には、内槽から外方へほぼ水平に延出するフランジと、フランジから連続して垂下したリムとを備える浴槽本体と、防水パンの浴槽載置部と洗い場とを離隔する土手部上に着脱自在に立設され浴槽本体の洗い場側前面を覆うエプロンとを備える浴槽において、フランジ下面からリムにほぼ平行して垂下するリブと、リブ前面側側面に当接するエプロン上端とリム裏面との間に嵌装されエプロン上端をリブに押圧固定するガスケットとを備えた浴槽が開示されている。この浴槽には、フランジ、リム及びガスケットによって入浴者把持用のグリップ部が形成されている。

10

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【文献】特開2005 - 296185号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

20

【0004】

しかし、特許文献1の浴槽は、ガスケットが軟質の弾性体により形成されているため、グリップ部を掴むとガスケットが変形し、ガスケットが変形する感触がガスケットに触れた指に伝わると考えられる。このため、特許文献1の浴槽のグリップ部は、手をかけた際の感触が良好でない印象を使用者に与えるおそれがある。

【0005】

本発明は、上記従来の実情に鑑みてなされたものであって、手をかけた際の感触が良好な手かけ部を有した浴槽を提供することを解決すべき課題としている。

【課題を解決するための手段】

【0006】

30

本発明の浴槽は、

浴槽本体と、

前記浴槽本体の洗い場側に配置されるエプロン本体と、

前記エプロン本体よりも洗い場側に配置され、上部に手をかける手かけ部を有したエプロンカバーと、

を備え、

前記エプロン本体は、上部に横方向に延びて前記洗い場側に突出した当接部を有し、

前記エプロンカバーは、前記当接部の下面に当接する被当接部を有している。

【0007】

この浴槽は、エプロンカバーの手かけ部に手をかけても、エプロンカバーの被当接部がエプロン本体の当接部に当接することによって、エプロンカバーが上方向へ移動することを抑えることができる。

40

【0008】

したがって、本発明の浴槽は手かけ部に手をかけた際の感触が良好である。

【図面の簡単な説明】

【0009】

【図1】浴室における、実施例1の浴槽、及び浴槽に隣り合う洗い場の配置を示す上方から見た平面図である。

【図2】図1における矢視A - A断面図である。

【図3】図1における矢視B - B断面図である。

50

【図４】実施例１の浴槽のエプロン本体をエプロンカバーが取り付けられる側から見た斜視図である。

【図５】実施例１の浴槽のエプロンカバーをエプロン本体に取り付ける側から見た斜視図である。

【図６】図３における矢視Ｃ－Ｃ断面図であって、（Ａ）は爪部本体がねじの右側に位置し、エプロンカバーの被係止部の長孔の下方に位置した状態を示し、（Ｂ）は爪部本体がねじの上側に位置し、エプロンカバーの被係止部の長孔に挿入された状態を示す。

【図７】図１の矢視Ａ－Ａ断面図における、浴室内に設置された浴槽本体に取り付けられたエプロン本体にエプロンカバーを取り付ける取付け方法を示し、（Ａ）はエプロンカバーの被当接部をエプロン本体の第２被係合部の第２基部の下方に配置した状態であり、（Ｂ）は第２被係合部の第２垂下片に被当接部を係合させた状態であり、（Ｃ）はエプロンカバーの被係止部の下端面をエプロン本体の係止部の上端面に当接させた状態である。

10

【図８】図１の矢視Ｂ－Ｂ断面図における、浴室内に設置された浴槽本体に取り付けられたエプロン本体にエプロンカバーを取り付ける取付け方法を示し、（Ａ）はエプロンカバーの係合部、及び被当接部をエプロン本体の第１被係合部の第１基部、及び当接部の下方に配置した状態であり、（Ｂ）は第１被係合部の第１垂下片に係合部を係合させた状態であり、（Ｃ）はエプロンカバーの被係止部の長孔にエプロン本体の爪部の爪部本体を挿入し、エプロンカバーの被当接部の上端面をエプロン本体の当接部の下端面に当接させた状態である。

【図９】図１の矢視Ａ－Ａ断面図において、洗い場から浴槽の手かけ部に手をかけた状態を示し、（Ａ）は（Ｂ）に比べて大きい手が手かけ部に手をかけた状態であり、（Ｂ）は（Ａ）に比べて小さい手が手かけ部に手をかけた状態である。

20

【図１０】図１の矢視Ａ－Ａ断面図において、浴槽本体側から浴槽の手かけ部に手をかけた状態を示し、（Ａ）は（Ｂ）に比べて大きい手が手かけ部に手をかけた状態であり、（Ｂ）は（Ａ）に比べて小さい手が手かけ部に手をかけた状態である。

【発明を実施するための形態】

【００１０】

本発明における好ましい実施の形態を説明する。

【００１１】

本発明のエプロン本体は、被係合部を有し、エプロンカバーは、被係合部に係合する係合部を有し得る。この場合、この浴槽は、係合部が被係合部に係合することによって、エプロンカバーをエプロン本体に対して容易に連結することができる。

30

【００１２】

本発明の被係合部は、下方向に垂下する垂下部を具備し、係合部が、垂下部に係合して、エプロンカバーの洗い場側への移動を規制し得る。この場合、この浴槽は、係合部が垂下部に係合することによって、エプロンカバーが洗い場側に移動することを抑えることができる。

【００１３】

本発明の浴槽の係合部は手かけ部に設けられ得る。この場合、使用者がエプロンカバーの手かけ部に手をかけることによって、エプロンカバーに力が付与された場合であっても、エプロンカバーが洗い場側に向けて撓むことを抑えることができる。

40

【００１４】

次に、本発明の浴槽を具体化した実施例１について、図面を参照しつつ説明する。

【００１５】

<実施例１>

実施例１の浴槽１は、図１に示すように、洗い場２を有する浴室Ｂに設置され、洗い場２に隣合い配置されている。

浴槽１は、浴槽本体１０、エプロン本体１１、及びエプロンカバー１２を備えている（図２、３参照。）。浴槽本体１０は下方向に窪み形成された凹部１０Ａを有している。凹部１０Ａは上方から見た平面視において左右方向（左右は、図１における、上側下側である

50

。以下同じ)に延びたほぼ楕円形状をなしている。浴槽本体10は、凹部10Aの上端(上下は、図1における、手前側奥側である。以下同じ)の周縁に設けられたフランジ部10B、及びフランジ部10Bの洗い場2側の外縁から垂下して延びるフランジ垂下部10Cを有している(図2、3参照。)。

【0016】

凹部10Aより洗い場2側に位置するフランジ部10Bの左右中央部には、上側傾斜部10Dが形成されている。上側傾斜部10Dは、洗い場2側の浴槽1の側面部3の左右中央上部に設けられ、上方から見た平面視において、洗い場2側に延びた上端縁の左右両端部よりも洗い場2側に突出し、左右中央に向かうにつれて突出する寸法が徐々に大きくなっている。また、凹部10Aより洗い場2側に位置するフランジ部10Bの左右両端部は後述するエプロンカバー12の平面部12Aより洗い場2側に突出していない。また、上側傾斜部10Dには洗い場2側に延びた上端縁から洗い場2から離れる方向(すなわち、浴槽1側)に向けて下方に傾斜し、上方に向けて突出して湾曲した湾曲面で形成された上面10Eを有している。

10

【0017】

エプロン本体11は、図2、3に示すように、上下方向に拡がり、ほぼ平板状をなして左右方向に延び、浴槽本体10の洗い場2側に配置され取り付けられる。また、エプロン本体11は、図4に示すように、当接部11A、被係合部である4つの第1被係合部11B、被係合部である第2被係合部11C、6つの係止部11D、及び4つの爪部11Eを有している。

20

当接部11Aは、エプロン本体11の上部に、横方向である左右方向に延びて洗い場2側に向けて突出して設けられている。また、当接部11Aは、エプロン本体11の左右中央部において切り欠かれ、左側と右側とに分断されている。

【0018】

4つの第1被係合部11Bは、当接部11Aの下方の近傍であって、当接部11Aが延びる左右方向に並んで設けられている。これら第1被係合部11Bは、第1取付け部11F、第1基部11G、及び垂下部である第1垂下片11Hを具備している。

第1取付け部11Fは、板状をなし、エプロン本体11の洗い場2側の面に当接し、ねじS1及びナットN1でエプロン本体11に連結されている(図3参照。)。

【0019】

30

第1基部11Gは、左右方向に延びており、第1取付け部11Fから洗い場2側に向けて突出している。

第1垂下片11Hは第1基部11Gの先端から下方に垂下している。つまり、第1被係合部11Bの第1垂下片11Hは下方に垂下している。

【0020】

第2被係合部11Cは左側と右側とに分断された当接部11Aの間に配置されている(図4参照。)。第2被係合部11Cは、第2取付け部11J、第2基部11K、及び垂下部である第2垂下片11Lを具備している。

第2取付け部11Jは、板状をなし、エプロン本体11の当接部11Aが設けられた面に当接し、ねじS2及びナットN2でエプロン本体11に連結されている(図2参照。)。

40

また、第2取付け部11Jの上端部は、洗い場2側に向けて傾斜している(図2参照。)。

【0021】

第2基部11Kは、左右方向に延びており、第2取付け部11Jから洗い場2側に向けて突出している。第2基部11Kの下端面は当接部11Aの下端面とほぼ面一である(図示せず。)。

第2垂下片11Lは第2基部11Kの先端から下方に垂下している。つまり、第2被係合部11Cの第2垂下片11Lは下方に垂下している。

【0022】

6つの係止部11Dは、エプロン本体11の下端部に、洗い場2側に向けて突出して左右方向に延び、当接部11Aが延びる方向に並んで設けられている。各係止部11Dの上端

50

面の上下方向の位置は互い同じである。

【 0 0 2 3 】

4つの爪部 1 1 E は、エプロン本体 1 1 の下端部に、各第 1 被係合部 1 1 B のほぼ真下にそれぞれが配置されている。これら爪部 1 1 E は、回動部 1 1 M、つまみ部 1 1 N、爪部本体 1 1 P を有している。

回動部 1 1 M はほぼ平板状をなしている。回動部 1 1 M には板厚方向に貫通して貫通孔が形成されている。各爪部 1 1 E は、外周縁に鍔が形成され挿通孔が形成された筒部材 1 1 Q が回動部 1 1 M の貫通孔に挿入され、この筒部材 1 1 Q の挿通孔にねじ S 3 が挿通され、ねじ S 3 及びナット N 3 でエプロン本体 1 1 に連結されている（図 3 参照。）。各爪部 1 1 E はねじ S 3 の中心軸周りに回動自在である。

10

【 0 0 2 4 】

つまみ部 1 1 N は、回動部 1 1 M の下端から下方向に垂下している。

爪部本体 1 1 P は、平板状をなし、回動部 1 1 M の厚みより薄く形成されている。爪部本体 1 1 P は回動部 1 1 M のエプロン本体 1 1 から離れた側の面に沿って回動部 1 1 M の右側から右方向に延びている。

爪部 1 1 E は、図 6 に示すように、例えばつまみ部 1 1 N に指をかけ、ねじ S 3 の中心軸周りに回動させることによって、爪部本体 1 1 P の位置をねじ S 3 に対して右側と上側とに変化させることができる。これにより、爪部 1 1 E の爪部本体 1 1 P は後述するエプロンカバー 1 2 の被係止部 1 2 G の長孔 1 2 K に挿抜自在である。また、爪部 1 1 E は、爪部本体 1 1 P の位置がねじ S 3 に対して右側から上側、及び上側から右側に不用意に変化しないように、姿勢を保持することができる構成とされている。

20

【 0 0 2 5 】

エプロンカバー 1 2 は、図 2、3 に示すように、エプロン本体 1 1 よりも洗い場 2 側に配置され、上端が浴槽本体 1 0 のフランジ垂下部 1 0 C の下端縁に隣合っている。

また、エプロンカバー 1 2 は、図 5 に示すように、平面部 1 2 A、下側傾斜部 1 2 B、屈曲部 1 2 C、被当接部 1 2 D、4つの係合部 1 2 E、及び被係止部 1 2 G を有している。

【 0 0 2 6 】

平面部 1 2 A は、上下方向に拡がり、ほぼ平板状をなして左右方向に延びている。

下側傾斜部 1 2 B は、平面部 1 2 A の左右中央部の上端部に設けられ、洗い場 2 側に向けて突出している（図 2、3 参照。）。つまり、エプロンカバー 1 2 はエプロンカバー 1 2 の上端部である下側傾斜部 1 2 B が下側傾斜部 1 2 B よりも下方に位置する平面部 1 2 A に比べて洗い場 2 側に突出している。下側傾斜部 1 2 B は左右中央に向かうにつれて洗い場 2 側に突出する寸法が大きくなっている（図 1 参照。）。

30

下側傾斜部 1 2 B の上端部は、図 2、3 に示すように、浴槽本体 1 0 のフランジ垂下部 1 0 C より洗い場 2 側に位置している。

下側傾斜部 1 2 B の洗い場 2 側には、平面部 1 2 A に向けて下方に傾斜し、上方に向けて窪んで湾曲した湾曲面によって形成され、下端が平面部 1 2 A に連続する下面 1 2 J が形成されている。また、下面 1 2 J には、滑り止め部 1 2 H が形成されている。滑り止め部 1 2 H は、例えば、下面 1 2 J にシボ加工が施されて形成されている。

【 0 0 2 7 】

40

屈曲部 1 2 C は、エプロンカバー 1 2 の上端に連結し、エプロン本体 1 1 側に向けて屈曲している。

被当接部 1 2 D は屈曲部 1 2 C の先端部に左右方向に沿って延び、上方向に突出して設けられている。被当接部 1 2 D の上端面はエプロン本体 1 1 の当接部 1 1 A の下面である下端部、及び第 2 被係合部 1 1 C の第 2 基部 1 1 K の下面である下端部に当接する。つまり、第 2 基部 1 1 K は当接部である。

また、第 2 被係合部 1 1 C の第 2 基部 1 1 K の下端部に当接する部分の被当接部 1 2 D は、第 2 被係合部 1 1 C の第 2 垂下片 1 1 L に係合する（図 2 参照。）。第 2 被係合部 1 1 C の第 2 基部 1 1 K の下端部に当接する部分の被当接部 1 2 D は、洗い場 2 側の面が第 2 垂下片 1 1 L の浴槽本体 1 0 側の面に当接し、浴槽本体 1 0 側の面の上端部が第 2 取付け

50

部 1 1 J の洗い場 2 側の面の上端部に当接している（図 2 参照。）。これにより、エプロンカバー 1 2 の上部の洗い場 2 側及び浴槽本体 1 0 側への移動を規制することができる。つまり、第 2 被係合部 1 1 C の第 2 基部 1 1 K の下端面に当接する部分の被当接部 1 2 D は係合部 1 2 L である（図 2、5 参照。）。また、エプロンカバー 1 2 は第 2 被係合部 1 1 C に係合する係合部 1 2 L を有している。

【 0 0 2 8 】

4 つの係合部 1 2 E は、エプロンカバー 1 2 の浴槽本体 1 0 側の面の上端部に、左右方向に並んで設けられている。これら係合部 1 2 E は、左右方向に延びており、エプロンカバー 1 2 の浴槽本体 1 0 側の面から浴槽本体 1 0 側に所定の寸法を設けて離れ、左右両端部が洗い場 2 側に向けて屈曲し、エプロンカバー 1 2 の浴槽本体 1 0 側の面に連結している（図 3、5 参照。）。4 つの係合部 1 2 E はエプロン本体 1 1 の 4 つの第 1 被係合部 1 1 B の第 1 垂下片 1 1 H にそれぞれが係合される（図 3 参照。）。つまり、エプロンカバー 1 2 は第 1 被係合部 1 1 B に係合する係合部 1 2 E を有している。各係合部 1 2 E の洗い場 2 側の面には第 1 垂下片 1 1 H の浴槽本体 1 0 側の面が当接する（図 3 参照。）。各係合部 1 2 E が配置された下側傾斜部 1 2 B の浴槽本体 1 0 側の面には、第 1 垂下片 1 1 H の洗い場 2 側の面が当接する（図 3 参照。）。これにより、エプロンカバー 1 2 の上部の洗い場 2 側及び浴槽本体 1 0 側への移動を規制することができる。

【 0 0 2 9 】

被係止部 1 2 G は、図 5 に示すように、エプロンカバー 1 2 の下端部に、浴槽本体 1 0 側に向けて突出し、左右方向に延びて設けられている。被係止部 1 2 G は、エプロンカバー 1 2 の左右中央部において切り欠かれ、左側と右側とに分断されている。

また、被係止部 1 2 G には 4 つの長孔 1 2 K が形成されている。各長孔 1 2 K は左右方向に長く形成されている。各長孔 1 2 K は 4 つの係合部 1 2 E のほぼ真下にそれぞれが配置されている。被係止部 1 2 G の下端面はエプロン本体 1 1 の係止部 1 1 D の上端面に当接する（図 2 参照。）。また、被係止部 1 2 G の長孔 1 2 K には、エプロン本体 1 1 の爪部 1 1 E の爪部本体 1 1 P が挿入される（図 3、6（B）参照。）。

【 0 0 3 0 】

次に、浴室 B 内に設置された浴槽本体 1 0 に取り付けられたエプロン本体 1 1 にエプロンカバー 1 2 を取り付ける取付け方法を説明する。

【 0 0 3 1 】

まず、エプロンカバー 1 2 の係合部 1 2 E 及び被当接部 1 2 D の係合部 1 2 L をエプロン本体 1 1 の第 1 被係合部 1 1 B 及び第 2 被係合部 1 1 C に係合させる。具体的には、エプロンカバー 1 2 の係合部 1 2 E 及び被当接部 1 2 D の係合部 1 2 L をエプロン本体 1 1 の第 1 被係合部 1 1 B の第 1 基部 1 1 G 及び第 2 被係合部 1 1 C の第 2 基部 1 1 K の下方に配置する（図 7（A）、8（A）参照。）。そして、エプロンカバー 1 2 を上方向に移動させて、第 1 被係合部 1 1 B の第 1 垂下片 1 1 H、及び第 2 被係合部 1 1 C の第 2 垂下片 1 1 L に係合部 1 2 E 及び被当接部 1 2 D の係合部 1 2 L を係合させる（図 7（B）、8（B）参照。）。

【 0 0 3 2 】

次に、図 7（C）に示すように、エプロンカバー 1 2 の被係止部 1 2 G をエプロン本体 1 1 の係止部 1 1 D に係止する。具体的には、エプロンカバー 1 2 の係合部 1 2 E 及び被当接部 1 2 D の係合部 1 2 L をエプロン本体 1 1 の第 1 被係合部 1 1 B 及び第 2 被係合部 1 1 C に係合させた状態を保ちつつ、エプロンカバー 1 2 の下側をエプロン本体 1 1 に近づける。そして、エプロンカバー 1 2 の被係止部 1 2 G の下端面をエプロン本体 1 1 の係止部 1 1 D の上端面に当接させて係止する。これにより、エプロンカバー 1 2 がエプロン本体 1 1 に対して下方向に移動することを規制しつつ、係合部 1 2 E 及び被当接部 1 2 D の係合部 1 2 L をエプロン本体 1 1 の第 1 被係合部 1 1 B 及び第 2 被係合部 1 1 C に係合させた状態を維持することができる。また、このとき、被当接部 1 2 D の上端面はエプロン本体 1 1 の当接部 1 1 A の下面である下端面に当接する（図 8（C）参照。）。

【 0 0 3 3 】

次に、図 6 (A)、(B)、図 8 (C) に示すように、エプロンカバー 1 2 の被係止部 1 2 G の長孔 1 2 K にエプロン本体 1 1 の爪部 1 1 E の爪部本体 1 1 P を挿入する。具体的には、爪部 1 1 E のつまみ部 1 1 N に手をかけ、爪部 1 1 E を回動させて、ねじ S 3 に対する爪部本体 1 1 P の位置を右側から上側に变化させる (図 6 (A)、(B) 参照。)。こうして、爪部本体 1 1 P をエプロンカバー 1 2 の被係止部 1 2 G の長孔 1 2 K に挿入する。これにより、エプロンカバー 1 2 の下部が洗い場 2 側へ移動することを規制することができる。こうして、エプロンカバー 1 2 を浴室 B 内に設置された浴槽本体 1 0 に取り付けられたエプロン本体 1 1 に取り付ける。

【 0 0 3 4 】

また、浴槽 1 は手かけ部 3 0 を備えている。手かけ部 3 0 は、図 2 に示すように、上側傾斜部 1 0 D の上面 1 0 E、及び下側傾斜部 1 2 B の下面 1 2 J を有している。また、下面 1 2 J には滑り止め部 1 2 H が形成されている。つまり、手かけ部 3 0 は滑り止め部 1 2 H を有している。手かけ部 3 0 は、図 1、2 に示すように、浴槽 1 の洗い場 2 側の側面部 3 の左右中央上部に設けられている。手かけ部 3 0 は、上方から見た平面視において、洗い場 2 側に延びたフランジ部 1 0 B の上端縁の左右両端部よりも洗い場 2 側に突出している (図 1 参照。)。

【 0 0 3 5 】

上面 1 0 E は、洗い場 2 側に延びたフランジ部 1 0 B の上端縁から洗い場 2 から離れる方向に向けて下方に傾斜し、上方に向けて突出して湾曲した湾曲面によって形成されている。上面 1 0 E の下端は下面 1 2 J の上端とほぼ同じ高さである。

【 0 0 3 6 】

下面 1 2 J はエプロンカバー 1 2 の上部に設けられた下側傾斜部 1 2 B に設けられている。下面 1 2 J は、洗い場 2 側のエプロンカバー 1 2 の平面部 1 2 A に向けて下方に傾斜し、上方に向けて窪んで湾曲した湾曲面によって形成され、下端が洗い場 2 側のエプロンカバー 1 2 の平面部 1 2 A に連続している。つまり、エプロンカバー 1 2 は上部に手をかける手かけ部 3 0 を有している。エプロンカバー 1 2 の手かけ部 3 0 の下面 1 2 J は、フランジ垂下部 1 0 C の下端よりも下方で隣合うように配置されている。

手かけ部 3 0 の上面 1 0 E は下面 1 2 J より傾斜が緩やかである。また、手かけ部 3 0 は洗い場 2 から離れるにつれて上下方向の寸法が大きくなっている。

【 0 0 3 7 】

使用者が洗い場 2 側から手かけ部 3 0 に手をかける際、使用者の手の指は、図 9 (A)、(B) に示すように、親指と他の指とが互いに対向し、指先に向かうに従って互いの間が広がる格好になる。そして、手かけ部 3 0 は洗い場 2 から離れるにつれて上下方向の寸法が大きくなっている。つまり、使用者の手の格好と手かけ部 3 0 の左右方向に直交する方向の断面形状とが似ているため、使用者の手の大きさが異なる場合でも、手かけ部 3 0 に良好に手をかけることができる。

また、使用者が浴槽本体 1 0 側から手かけ部 3 0 に手をかける際、使用者の手の平は、図 1 0 (A)、(B) に示すように、使用者の手の大きさが異なる場合でも、上側傾斜部 1 0 D の上面 1 0 E に沿って当接し、指先が下側傾斜部 1 2 B の下面 1 2 J に確実に当接する。これにより、浴槽 1 は浴槽本体 1 0 側からも手かけ部 3 0 に良好に手をかけることができる。

【 0 0 3 8 】

また、エプロンカバー 1 2 の被当接部 1 2 D の上端面がエプロン本体 1 1 の当接部 1 1 A の下端面に当接している (図 3 参照) ため、使用者が手かけ部 3 0 を掴んでも、エプロンカバー 1 2 が上方向に撓むことを抑えることができる。

【 0 0 3 9 】

また、エプロンカバー 1 2 の被当接部 1 2 D の係合部 1 2 L の上端面がエプロン本体 1 1 の第 2 被係合部 1 1 C の当接部である第 2 基部 1 1 K の下端面に当接している (図 2 参照) ため、使用者が手かけ部 3 0 の第 2 被係合部 1 1 C が設けられた場所を掴んでも、エプ

10

20

30

40

50

ロンカバー 12 が上方向に撓むことを抑えることができる。

また、エプロンカバー 12 の被当接部 12 D の係合部 12 L の浴槽本体 10 側の面の上端部がエプロン本体 11 の第 2 被係合部 11 C の第 2 取付け部 11 J の洗い場 2 側の面の上端部に当接している（図 2 参照）ため、使用者が手かけ部 30 の第 2 被係合部 11 C が設けられた場所を掴んでも、浴槽本体 10 側に向けてエプロンカバー 12 が撓むことを抑えることができる。

また、エプロンカバー 12 の被当接部 12 D の係合部 12 L の洗い場 2 側の面がエプロン本体 11 の第 2 垂下片 11 L の浴槽本体 10 側の面に当接している（図 2 参照）ため、使用者が手かけ部 30 の第 2 被係合部 11 C が設けられた場所を掴んでも、洗い場 2 側に向けてエプロンカバー 12 が撓むことを抑えることができる。

10

【0040】

また、エプロンカバー 12 の 4 つの係合部 12 E の内の内側に配置された 2 つが手かけ部 30 に設けられて（図 3、5 参照）いる。そして、係合部 12 E の洗い場 2 側の面には、第 1 被係合部 11 B の第 1 垂下片 11 H の浴槽本体 10 側の面が当接しているため、使用者が手かけ部 30 の係合部 12 E が設けられた場所を掴んでも、洗い場 2 側に向けてエプロンカバー 12 が撓むことを抑えることができる。

また、各係合部 12 E が配置された下側傾斜部 12 B の浴槽本体 10 側の面には、第 1 垂下片 11 H の洗い場 2 側の面が当接しているため、使用者が手かけ部 30 の係合部 12 E が設けられた場所を掴んでも、浴槽本体 10 側に向けてエプロンカバー 12 が撓むことを抑えることができる。

20

【0041】

このように、浴槽 1 は、エプロンカバー 12 の手かけ部 30 に手をかけても、エプロンカバー 12 の被当接部 12 D がエプロン本体 11 の当接部 11 A、及び第 2 被係合部 11 C の第 2 基部 11 K に当接することによって、エプロンカバー 12 が上方向へ移動することを抑えることができる。

【0042】

したがって、本発明の浴槽 1 は手かけ部 30 に手をかけた際の感触が良好である。

【0043】

また、浴槽 1 のエプロン本体 11 は、第 1 被係合部 11 B、及び第 2 被係合部 11 C を有し、エプロンカバー 12 は、第 1 被係合部 11 B、及び第 2 被係合部 11 C に係合する係合部 12 E、12 L を有している。このため、浴槽 1 は、係合部 12 E、12 L が第 1 被係合部 11 B、及び第 2 被係合部 11 C に係合することによって、エプロンカバー 12 をエプロン本体 11 に対して容易に連結することができる。

30

【0044】

また、第 1 被係合部 11 B、及び第 2 被係合部 11 C は、下方向に垂下する第 1 垂下片 11 H、及び第 2 垂下片 11 L を具備し、係合部 12 E、12 L が、第 1 垂下片 11 H、及び第 2 垂下片 11 L に係合して、エプロンカバー 12 の洗い場 2 側への移動を規制する。このため、浴槽 1 は、係合部 12 E、12 L が第 1 垂下片 11 H、及び第 2 垂下片 11 L に係合することによって、エプロンカバー 12 が洗い場 2 側に移動することを抑えることができる。

40

【0045】

また、浴槽 1 の係合部 12 E、12 L は手かけ部 30 に設けられている。このため、使用者がエプロンカバー 12 の手かけ部 30 に手をかけることによって、エプロンカバー 12 に力が付与された場合であっても、エプロンカバー 12 が洗い場 2 側に向けて撓むことを抑えることができる。

【0046】

本発明は上記記述及び図面によって説明した実施例 1 に限定されるものではなく、例えば次のような実施例も本発明の技術的範囲に含まれる。

（１）実施例 1 では、滑り止め部は下面にシボ加工が施された部分であるが、ゴムやエラストマー等で形成された部材を貼着してもよい。

50

(2) 実施例 1 では、手かけ部の上側傾斜部の上面、及び下側傾斜部の下面が湾曲した湾曲面で形成されているが、上側傾斜部の上面、及び下側傾斜部の下面を平面で形成してもよい。また、上側傾斜部の上面、及び下側傾斜部の下面を湾曲面及び平面で形成してもよい。

(3) 第 1 被係合部、第 2 被係合部、係止部、爪部、係合部、及び被係止部に形成する長孔の数は、実施例 1 に開示された数に限定されない。

(4) 実施例 1 では、被当接部の上端面が当接部の下端面、及び第 2 基部の下端面に当接し、被当接部の洗い場側の面が第 2 垂下片の浴槽本体側の面に当接し、浴槽本体側の面が第 2 取付け部の洗い場側の面の上端部に当接しているが、隙間を設けてもよい。

(5) 実施例 1 では、下側傾斜部をエプロンカバーと一体的に形成しているが、エプロンカバーと別体で形成した下側傾斜部をエプロンカバーに連結してもよい。

10

(6) 実施例 1 では、係合部が、第 1 垂下片、及び第 2 垂下片に係合しているが、例えば、エプロン本体に板厚方向に貫通した貫通孔を被係合部として形成し、エプロンカバーに、浴槽本体側に突出して設けられ、先端部が下方に屈曲した突出部を係合部として設け、貫通孔に突出部を差し込み、突出部の先端部の屈曲した部分を貫通孔の下縁に係合することによってエプロンカバーをエプロン本体に連結してもよい。つまり、エプロン本体は被係合部を有し、エプロンカバーは被係合部に係合する係合部を有している。

(7) 実施例 1 では、被当接部が当接部の下端面に当接しているが、当接部に下側を向いて形成された面(すなわち、下面)に被当接部を当接してもよい。

20

【符号の説明】

【 0 0 4 7 】

1 ... 浴槽

2 ... 洗い場

1 0 ... 浴槽本体

1 1 ... エプロン本体

1 1 A ... 当接部

1 1 B ... 第 1 被係合部 (被係合部)

1 1 C ... 第 2 被係合部 (被係合部)

1 1 H ... 第 1 垂下片 (垂下部)

1 1 K ... 第 2 基部 (当接部)

1 1 L ... 第 2 垂下片 (垂下部)

30

1 2 ... エプロンカバー

1 2 D ... 被当接部

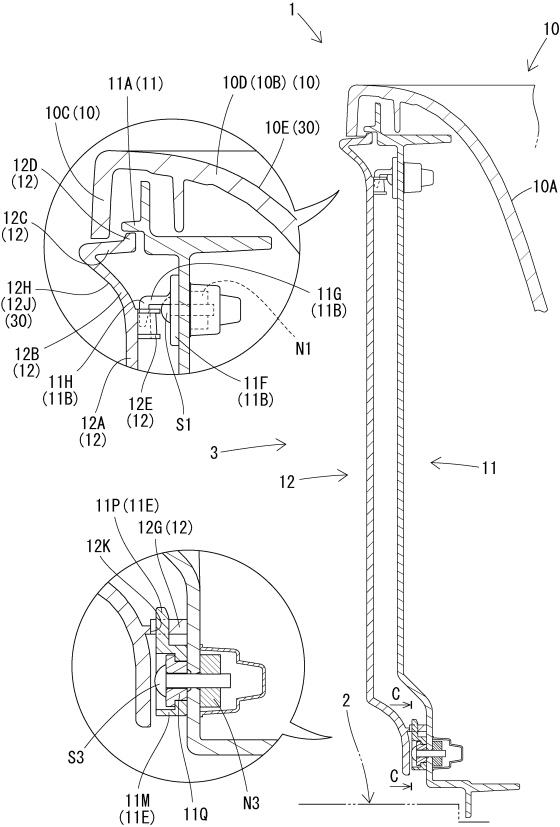
1 2 E , 1 2 L ... 係合部

3 0 ... 手かけ部

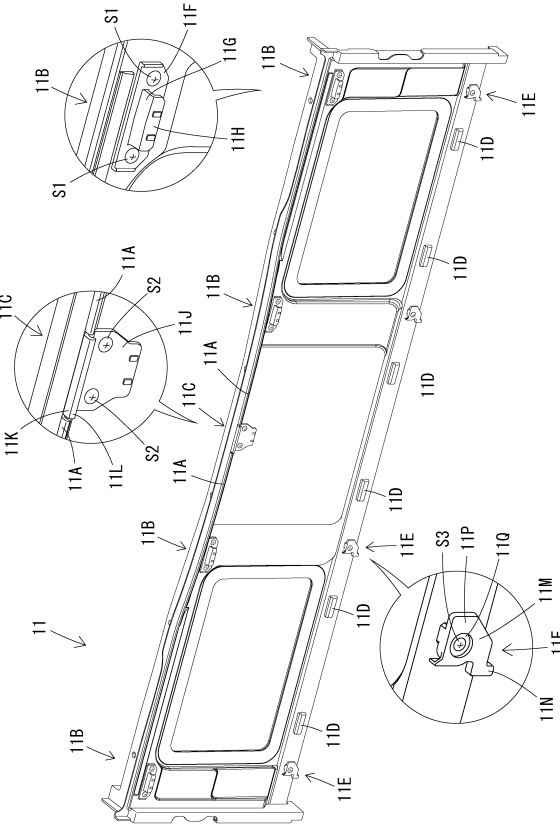
40

50

【図 3】



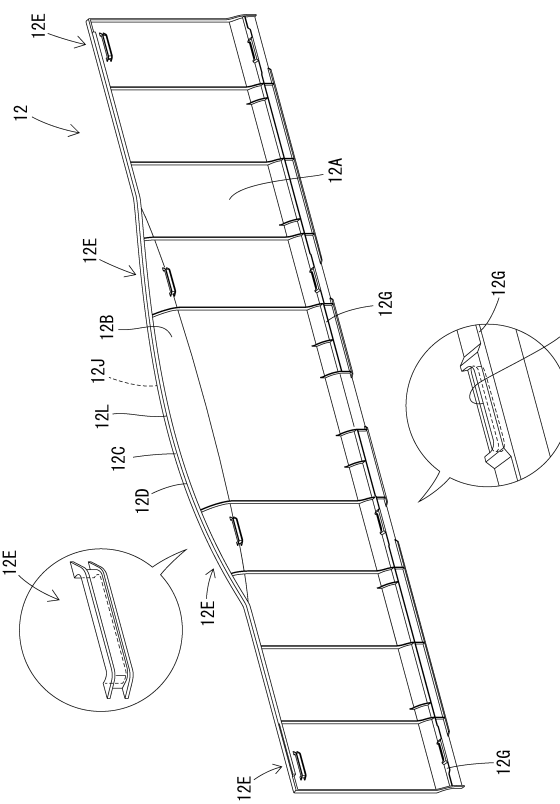
【図 4】



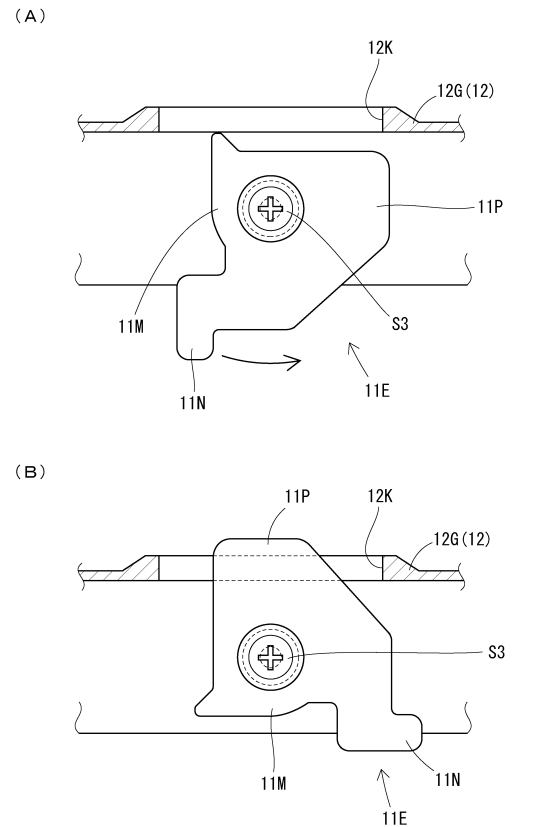
10

20

【図 5】



【図 6】

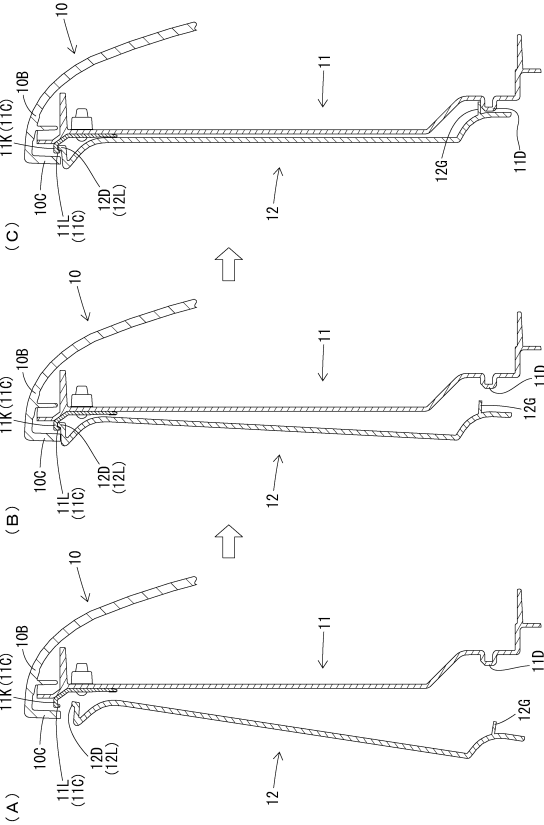


30

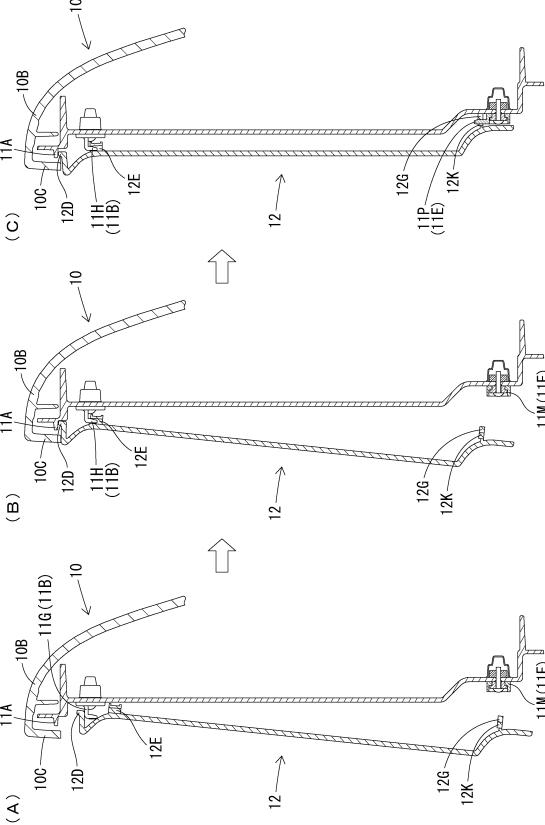
40

50

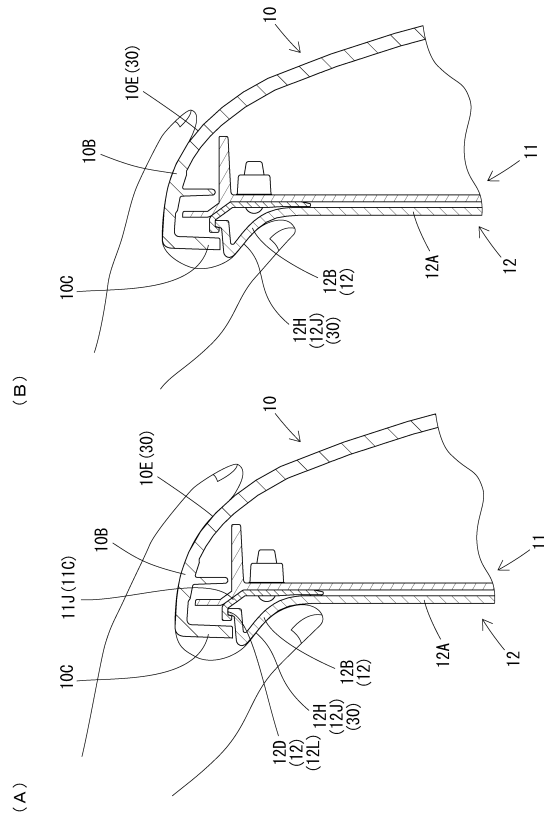
【図 7】



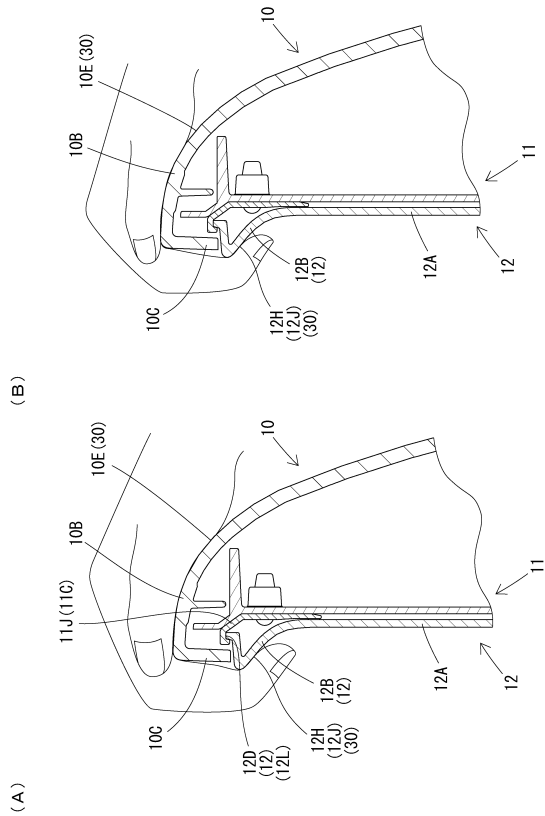
【図 8】



【図 9】



【図 10】



10

20

30

40

50

フロントページの続き

- (56)参考文献 実開昭 5 0 - 1 4 6 8 3 5 (J P , U)
 特開 2 0 1 0 - 1 3 6 8 0 5 (J P , A)
 米国特許第 5 9 4 0 9 0 6 (U S , A)
 特開 2 0 0 9 - 2 8 3 2 0 (J P , A)
- (58)調査した分野 (Int.Cl. , D B 名)
 A 4 7 K 3 / 0 2 - 4 / 0 0